

ダニエル書8章1-8節 「ペルシアとギリシアの高ぶり」

1A ペルシアからの幻 1-2

2A ペルシアの高ぶり 3-4

3A ギリシアの高ぶり 5-8

1B ペルシアとの衝突 5-7

2B 高ぶりの後の分裂 8

本文

ダニエル書 8 章を開いてください。私たちは、世の終わりに生きるキリスト者ということを主題に、ダニエル書を少しずつ見ていっています。7 章は、4 回に渡って見てきました。8 章も、たぶん 3 回に渡って見ていくと思います。今晚は、1 節から 8 節までを読んでいきます。

ダニエル書は 7 章から、ダニエルの見た夢や幻で、預言になっている部分に入っています。ネブカドネツアルの見た夢は 2 章にありましたが、その人の像の幻と、7 章でのダニエルの幻が同じ四つの帝国についての夢でありました。バビロン、メディア・ペルシア、ギリシア、そしてローマです。しかし、第四の国ローマについては、人の像については鉄の脚だけでなく、鉄と粘土が混じった足の部分がありました。第四の獣ローマについては、十本の角だけでなく、その間から小さな角が生え出ていました。これは、ローマ帝国の後に出現する世界帝国の姿です。ローマの特徴を持ちながら支配します。その後で、キリストが戻って来られこれらの人間の国を粉々にして、神の御国、永遠の国を打ち立てられます。

その終わりの日に出てくる小さな角が、反キリストであることを 7 章で私たちは学びました。8 章は、その反キリストがかつてギリシアの国から出てきた王になぞらえて出てくることを見てきます。第四の獣の国は、ローマの延長で出てくるのですが、その小さい角の特徴は、ギリシアから出てきた王のそれに極めて似た形で出てくるということです。

1A ペルシアからの幻 1-2

¹ ペルシャツアル王の治世の第三年、初めに私に幻が現れた後、私ダニエルにもう一つの幻が現れた。

「初めに私に幻が現れた後」とは、七章で見た幻のことです。ダニエルは、バビロンの最後の王ペルシャツアルの治世の元年にその夢を見ました。今は「第三年」です。紀元前 550 年辺りです。

そして、ここを日本語で読んでるので分かりませんが、新改訳の聖書をお持ちの方は、ぜひ 2

章に戻って開いてください。ページ下にある引照聖句と説明の部分で、2章4節のところを見てください。「ダニエル 4—7 28 はアラム語で記されている」とあります。ダニエル 2章4節から7章の終わりまでは、アラム語で書かれていました。一つの巻物なのに、二つの言語で書かれているというのはとても不思議ですね。

2章の学びの時にお話しましたが、ダニエルとその友人たちがバビロンに捕え移されて、神がイスラエルによってご自分を証しされることがなくなってしまいました。約束の地から、神がご自分の民を引き抜いてしまったからです。しかし、今、神はダニエルたちを通して、異邦人の国バビロンに直接、介入されて、異邦人の国々、また人間の国を、天の神ご自身が支配されていることを証ししていかれるのです。かつて、イスラエルの民がペリシテ人との戦いで、神の箱を戦場に持っていったところ、神の箱がペリシテ人に奪い取られました。そして、祭司ピネハスの子が生まれたのですが、母は出産直後に死に、その子に「イ・カボテ」と名付けました。栄光がイスラエルから去ったことを意味していました。けれども、神はご自身を証ししないではごいません。神の箱をペリシテ人のダゴンの神の宮に安置しましたが、ダゴンが倒れていて、その頭と両腕が切り離されていました。それ以後、ペリシテ人は腫物で打たれていきました。神の箱を移動するも、その町のペリシテ人が腫物で打たれました。こうして、イスラエルには神がおられることを彼らは悟るのです。

それと同じように、神はバビロンの国に直接、証しされたのです。また、バビロンの後のメディア・ペルシア、そしてギリシア、ローマに対して、異邦人の世界、聖書のことばを知らない世界にも証しされました。そのため、聖霊は、イスラエル人の言語であるヘブル語ではなく、当時の貿易用語であるアラム語でダニエルに書くようにされたのです。アラム語はヘブル語と似ていると言われます。そして、新約時代のユダヤ人の間では、礼拝においてはヘブル語ですが会話はアラム語ではなかったか、と言われていています。ちなみに今は、アラム語はシリアやイラクにいるごく少数の人々で話されています。シリア正教会という、正教会の流れがあり、そこでは礼拝にアラム語を使っています。

そして8章から、再びヘブル語に戻っています。なぜ聖霊は、ダニエルにヘブル語で書くように戻されたのか？これは、やはりこれからの預言が、ダニエルの同胞ユダヤ人たちがどうなるのか？ということに深く関わるからです。7章においても、第四の獣から出る小さな角が、聖徒たちに打ち勝つとありました。獣の手中に陥ることがあります。その多くが、イスラエルの残りの民であると考えられますが、黙示録を見れば、患難時代にイエスを信じる異邦人も含まれます。しかし8章では、ギリシアの支配においてユダヤ人が大迫害を受ける預言になっています。ここでは、純粹のユダヤ人に対してのみの預言です。そして、聖なる都エルサレムが踏み荒らされる話になっています。神が読む人々に注目させたい視点が、世界から再びイスラエルに戻ります。

² 私は幻の中で見た。見ていると、私はエラム州にあるスサの城にいた。なお幻を見ていると、私

はウライ川のほとりにいた。

ダニエルは今、幻で「エラム州にあるスサの城」にいます。スサは、後のペルシア帝国の首都となるところです。「エラム州」とありますが、これがペルシアの前にあった古代の国の名です。預言書にはエラムに対する預言が多くあり、それはペルシア、また今のイランに対する預言となっています。そして、「私はウライ川のほとりにいた」と言っていますが、これはスサの城の近く通っていく運河です。ダニエルはまだ、バビロン帝国の中にいます。しかし、王ベルシャツアルは、約 11 年後、メディア・ペルシア連合軍によって殺されます。そして、ダニエル自身もスサのほうに移動したに違いありません。メディア人の王ダレイオスの治世で、彼はもっとも重要な役職についていたからです。ダニエルは、これからペルシアの台頭を幻の中で見ていき、それから西方から彗星のごとく現れる、とんでもない勢力、ギリシアがペルシアを倒す幻を見ます。

幻を受ける舞台が、川のほとりであることが預言の中には目立ちます。最後の大きな戦についての幻は 10 章から 12 章までにありますが、御使いたちが川岸にいるのをダニエルは見ています (12:5)。そして預言者エゼキエルは、捕囚の民と共にいた時、バビロンの地のケバル川のほとりで、ケルビムの幻を見ています。川というのは、一つの地域からまた違う地域への境目になります。川があるので、人々の行き来がそこで一程度、妨げられます。そういったところに、神から主権、支配、力が任された御使いが活発に動いているというのは、十分あり得ることでしょう。

これからペルシア時代に入れば、このスサの宮は中心的な都になります。ネヘミヤは、ここスサで、アルタクセスクセス王に仕えて、それでエルサレムに一時帰還する許可を得ました。そして、エステルは、ここスサで、神がその時に定めておられた、ユダヤ民族の救出に用いられます。

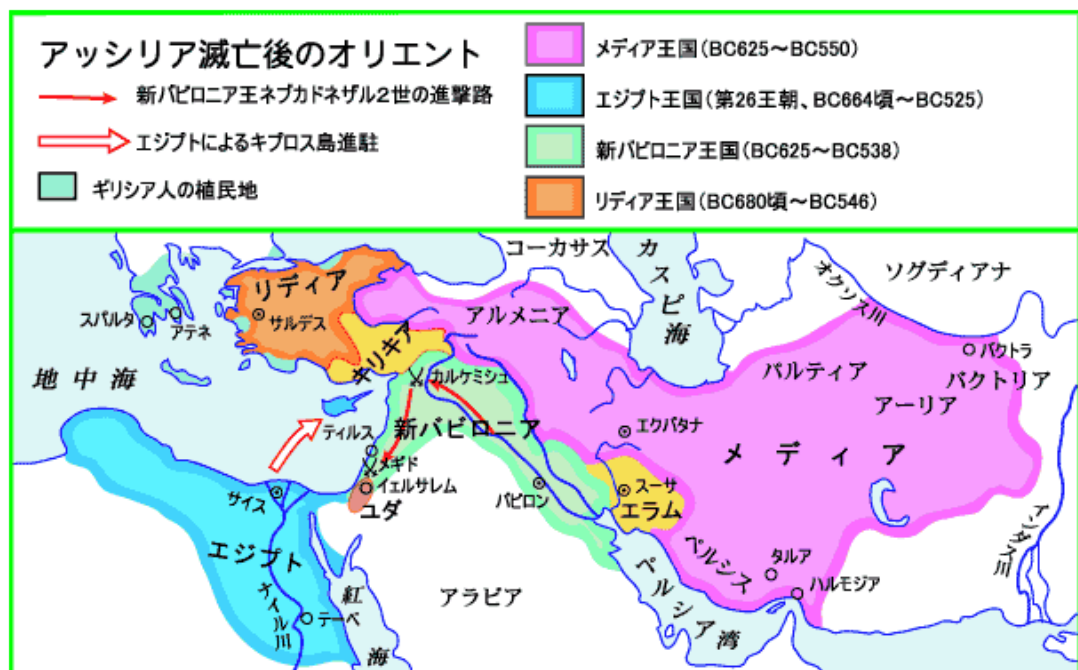
2A ペルシアの高ぶり 3-4

³ 私が目を上げて見ると、なんと、一匹の雄羊が川岸に立っていた。それには二本の角があつて、この二本の角は長かったが、一本はもう一本の角よりも長かった。その長いほうは、後に出て来たのであつた。

この雄羊の姿、8 章の後半で御使いガブリエルがダニエルに、「メディアとペルシアの王である」と解き明かしています (8:20)。7 章においては、第二の獣として熊のような姿で現れましたが、ここでは雄羊です。二本の角は、メディア国とペルシア国を表します。初めは、メディア国があつて、その中に属国としてペルシア王国がありました。そこで、紀元前 600 年頃、王子としてキュロスが生まれました。

このキュロスが、後にペルシア帝国となるアケメネス朝の初代王となります。そして、キュロスは、イザヤの預言で、なんと名指しされて「油注がれた者(メシア)」とさえ呼ばれます。彼が、エズラ記

の始まりに書かれていますが、バビロンを倒した後に、ユダヤ人解放を布告し、エルサレムで神殿の再建を命じた人です。バビロンが奪い取った神殿の器などを返し、またペルシアの国庫も使って、再建するように命じたのです。バビロンで奴隷とされているところから、解放せしめ、神を礼拝するように命じたというところから、後に現れるメシアを示す人として、油注がれた者と呼ばれたのです。



キュロスが生まれた時は、今のイラン北西部にメディア王国が広がっていました。ペルシア王国はメディアに従属する小国です。キュロスはメディアに反乱を起こし、勝利して、統一王朝メディア・ペルシアとし、それをアケメネス朝と呼びます。したがって、後に出て来た長い角がペルシアであり、初めにあったメディアを後になって凌いだのです。

⁴ 私はその雄羊が、西や、北や、南の方を角で突いているのを見た。どんな獣もそれに立ち向かうことができず、また、それから救い出す者もいなかった。雄羊は思いのままにふるまって、高ぶっていた。

主はダニエルに、非常に詳しい預言を与えておられます。「私はその雄羊が、西や、北や、南の方を角で突いているのを見た。」とあります。この方角が、メディア・ペルシア帝国の遠征の順序を示しているのです。

初めに西方に遠征に行きました。キュロスは、後に歴史家から「不死身の一万」あるいは「不死隊」と呼ばれる精鋭軍団を率いて、小アジア西部のリュディア王国に攻め入りました。パウロたちがアンティオキアから西方に宣教に行ったところ舞台です。また、そこには黙示録にある、アジ

¹ http://www005.upp.so-net.net.jp/nanpu/history/babylon/maps/after_assyria.html

アの七つの教会があります。そのリュディア王国を紀元前 547 年に打ち破っています。サルデイスの教会に対して、主イエスが、「あなたは生きていとされるが、実は死んでいる。」と言われましたが、突然襲ってくる災いをサルデイスは経験していました。キュロス王が、リュディア王クロイソスを破り、サルデイスを陥落させた出来事です。それからキュロスは、古代から残っていたエラム王国を破り、そして紀元前 539 年にバビロンを倒しています。これらはスサから見たら、すべて「西」です。初めに西を征服しました。

その後も、キュロスの後に次ぐ王たち、ダレイオス一世やクセルクセスが、さらにギリシアにまで遠征して、長きにわたるペルシア戦争を起こします。ギリシアの都市国家が何とか持ちこたえて、この遠征には失敗します。エステル記の 1 章のクセルクセス王の宴会は、その戦争の前に開かれたもので、2 章ではもう負けて帰って来ていた時、自分が追放した王妃ワシュティのことを思い出し、新たな王妃探しをして、エステルが選ばれました。これが、西方遠征です。

次に「北」を攻め取りました。今のイランの北東部に遠征に行きました。そこには、古代からの名のある町、バクトリアがあります。ゾロアスター教の中心地です。さらに北西に行き、ソグディアナを攻め、サカという民族も従属させます。これが北方への遠征です。

キュロス王はその後、死んでいます。しかし息子カンビュセス二世が、エジプトに遠征しました。つまり「南の方」に行きました。そして、古代オリエントに独立国として残っていたのがエジプトです。紀元前 525 年の戦いで勝利し、そこを併合しました。これで、当時の古代オリエントの世界を統一しました。ですから、「南の方を角で突いている」とあります。

このように、勇ましいペルシアの戦いではありますが、主はダニエルに対して、彼らが、「雄羊は思いのままにふるまって、高ぶっていた。」と言っています。彼らが戦いにおいて、誰もそれを止めることはできず、自分は思いのままふるまえるとうぬぼれて言ったのです。それで、高ぶりました。私たちがこれまで、力と権威は全て神から来ていることを見てきました。4 章のネブカドネツアルが受けた懲らしめを思い出してください。権威と力と栄光が、自分自身に属しているかのようにみなすときに、それが高ぶりとなります。詩篇 49 篇 20 節に、神からの警告があります。「人は栄華のうちにあっても悟ることがなければ滅び失せる獣に等しい。」

3A ギリシアの高ぶり 5-8

1B ペルシアとの衝突 5-7

⁵ 私が注意して見ていると、見よ、一匹の雄やぎが、地には触れずに全土を飛び回って、西からやって来た。その雄やぎには、際立った一本の角が額にあった。

この雄やぎは、ギリシアのことであると御使いガブリエルが言っています(8:21)。7章においてギ

リシアは、四つの頭、四つの翼を持つ豹でありました。ここでは、地に触れずに全土を飛び回っている雄やぎです。これは、驚異的な速度で当時知られた世界を征服した、「アレキサンダー大王」こと、アレクサンドロス三世です。

アレクサンドロスは、ギリシア半島の北部にあるマケドニアの王ピリッポス二世の息子として生まれました。ピリッポスは、パウロが欧州への宣教旅行の初めの町ピリピの名前で使われています。ピリピやテサロニケは、マケドニアにあります。そこで生まれて、なんと 20 歳で父が死んだため王位を継承しました。そこから 30 歳までの間に、小アジア、シリア、エジプト、そしてペルシアを破って、はるかインド北西部にまで遠征し、大帝国を築きました。「戦術・戦略の天才であり、少年のごとき純朴な野心を持っていた。」とウィキペディアの紹介は評しています。それが、「地には触れずに全土を飛び回って」というところと、「際立った一本の角が額にあった」という表現になっています。

ギリシアの文化を、彼はこれだけの広範囲に広め、その後の世界を全く変えてしまいました。これを「ヘレニズム文化」と呼び、今に至るまで西欧文明に深く浸透しています。いや、西欧のみならず私たちの生活にも浸透しています。彼は、異文化の交流と融合を図る政策を実行したので、そのギリシア文化を他の人々が受容するのを容易にしました。またドラクマという古代ギリシアの通貨を流通させることで、迅速で活発な商取引も可能にしました。そのために、ギリシアの後にローマが出て来ても、新約聖書には、ギリシア人が出て来て、またギリシア語が共通言語として出てくるのです。そして、このギリシアから出てきた王が、後の反キリストを指し示す人物になるということで、私たちはギリシアというもの、特にアレクサンドロス大王が広めたギリシア世界というものには、注目する必要があります。

⁶この雄やぎは、川岸に立っているのを私が見た、あの二本の角を持つ雄羊に向かって、激しい勢いで突進した。



アレクサンドロスは、まずギリシアのすぐ東にあるアジアを、ペルシアから奪い取る戦いから始めました。ペルシアが、ギリシアにまで西方遠征をしたのですが、今度は、ギリシアがペルシアの東方への遠征を始めたのです。紀元前 334 年に、今のトルコ西方の、エーゲ海に面する都市を、北から南に向かって、ペルシアから次々と攻略していきました。次に、333 年には、ピシディア、フリュギア、そしてカッパドキアを通して、パウロの故郷タルソスを通ります。そしてアンティオキアに近いイツスとところで、ダレイオス三世率いるペルシア軍と激突します。



そして、ペルシアに向かって東に行くのではなく、まずエジプトに向かって遠征しました(前 332-331 年)。ペルシアと戦っても、もしエジプトから攻められたら困ります。それで、そして、エゼキエル 26 章にある、ツロの包囲が 332 年に起こります。ツロの沖合にある離島まで陸地の瓦礫を海に投げ入れて、道を造り、攻め取ったという話です。それから南下してガザを包囲、そしてエジプトでは大した戦闘もなく征服しました。地中海沿岸にある有名な町アレクサンドリアが、彼の名にちなんでつけられています。

⁷ 見ていると、この雄やぎは雄羊に近づき、怒り狂って雄羊を打ち倒して、その二本の角をへし折ったが、雄羊にはこれに立ち向かう力がなかった。雄やぎは雄羊を地に投げ倒して踏みつけた。雄羊をこの雄やぎから救い出す者はいなかった。



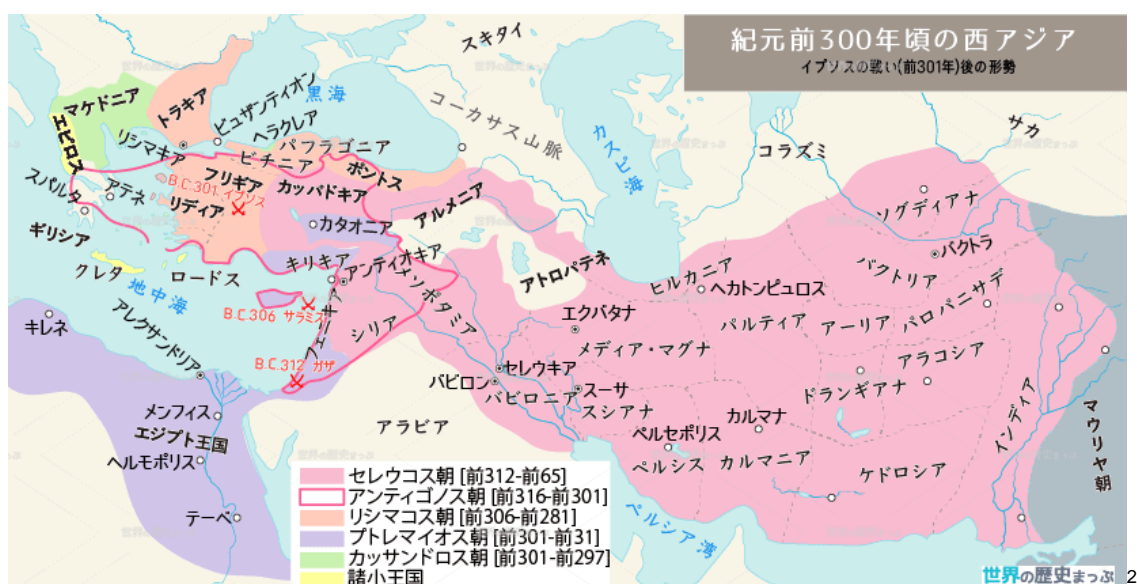
331年にイラク北部における「ガウガメラの戦い」が起こります。これが、関ヶ原の戦いのような、ギリシアとペルシアの天下分け目の戦いとなり、アレクサンドロスの軍四万七千は、ティグリス川上流のガウガメラで二十万とも三十万ともいわれたダレイオス三世の指揮下のペルシア軍を破りました。ダレイオス三世はそこから逃走したものの、後に部下に殺されてしまいます。アレクサンドロスは、ペルシアの中枢であるバビロンやスサに行き、攻略しました。

2B 高ぶりの後の分裂 8

⁸ この雄やぎは非常に高ぶったが、強くなったときにその大きな角が折れた。そしてその代わりに、天の四方に向かって、際立った四本の角が生え出て来た。



アレクサンドロスも、ペルシアの王と同じく、破竹の勢いで戦っていく中で高ぶっていきました。この後は、中央アジアを攻め、そしてインドに遠征し、制圧していきます。この時から部下たちから疲労困憊であり、進軍を拒否したので、やむなく兵を返すことにしました。そして324年、ペルシアの首都スサに戻り、ダレイオスの娘と結婚します。そして彼は、バビロンから、これほどまでに拡大した、広範囲の帝国を治めようとし、そのため多くのペルシア人を起用しました。こうやって専制君主となり、地元のマケドニア人の反発を買いました。ところが、323年、次にアラビア遠征を計画している時に、蜂に刺されて祝宴中に倒れました。(彼の死亡には、いろいろな説がありますが、その一つです。)そして、十日間高熱に侵されて、「最強の者が帝国を継承せよ」という遺言し、なんと32歳の若さで死去しました。これが、「強くなったときにその大きな角が折れた。」という言葉であります。まさに、「箴言 16:18 高慢は破滅に先立ち、高ぶった霊は挫折に先立つ。」であります。



しかし、その遺言の通りに動こうとした将軍たちは、覇権争いをしました。アンティノゴス、セレウコス、プトレマイオス、そしてカッサンドロスです。アンティノゴスは小アジア、セレウコスがバビロンとシリア、プトレマイオスがエジプト、そしてカッサンドロスがギリシアとマケドニアです。それが、「天の四方に向かって、際立った四本の角が生え出て来た」という言葉になります。そして私たちはダニエル書 11 章において、このギリシアが四分割された中で、南のプトレマイオス王朝と北のセレウコス王朝の長い戦争の歴史を読んでいくことになります。

次回、このセレウコス朝から出てくる一人の王についての行動を読みます。この男が、「荒らす打回しい者」と呼ばれるようになり、また不法を行なう者として、聖所を覆すようになります。高ぶりが極みに達して、やりたい放題する人間です。しかし、そのような者が現れる前にすでに高ぶりの世界がありました。これが私たちが注目せねばならないでしょう。不法の秘密は働いているのです。

² <https://sekainorekisi.com/glossary/%E3%82%BB%E3%83%AC%E3%82%A6%E3%82%B3%E3%82%B9%E6%9C%9D>